

公益社団法人日本ホッケー協会(JHA) 令和8年度(2026年度)事業計画

要旨

当協会は我が国におけるホッケー界を統轄し、代表する団体として、ホッケー競技の普及および振興に関する事業を行い、人々の心身の健全な発展と豊かな社会の創造に寄与することを目的としている。

2026年はFIHワールドカップの開催年度である。日本代表は2026年3月の最終予選によって男女チームが揃って出場権を獲得し、2026年8月15日～30日にオランダ・ベルギーで開催予定の本大会に出場する予定である。また、翌9月19日からは愛知・名古屋アジア競技大会が開催する。本大会は次のロサンゼルス2028オリンピックの出場権がかかっており、日本のホッケー界にとって極めて重要な位置づけとなっており、男女代表チームの選手強化活動が佳境を迎えることとなる。

新たなアスリートパスウェイとなる一貫指導体制「FTEM」の導入2年目をむかえ、アンダーカテゴリーの選手たちのレベルアップを含めて選手の育成強化を行い、国際競技大会へのチームの派遣等を通じた競技力向上を図る。

これまで長くホッケーを支えて頂いたホッケータウンと呼ばれる地域の皆様と手を取り合って各種国内競技大会の開催を行うと共に、審判員やコーチ等の養成を進める。また、地域社会との連携を一層深め、ホッケー競技の更なる普及およびそれらを通じた地域振興や地域課題の解決に貢献していく。

スポーツ団体ガバナンスコード〈中央競技団体向け〉に全面的に則り、引続き理事会及び協会組織のガバナンス強化に努める。本年度は理事の改選期であり、一層のガバナンス向上を目指す。財政基盤の再建に関しては、令和7年度に新規パートナーを複数獲得でき、令和8年度からも大型の契約が始まるが、引続き自主財源の獲得と規律ある事業運営の確立を目指す。

日本ホッケー界を代表して、国際ホッケー連盟(FIH)やアジアホッケー連盟(AHF)といった国際機関、JSPO・JOC・JSC・JADAといったステークホルダーとの密なコミュニケーションを行い引続き関係強化を図る。また、事務局業務の合理化・効率化を図り、次世代を担う人材の発掘と育成、東京2020大会のレガシーである大井ホッケー競技場の活用にも引続き注力する。

JHAはこの目的を達成するために、次の事業を行う。

1. ホッケー競技の競技力の向上に関する事業、並びにホッケー競技の国際競技大会等に対する代表参加者の選定及び派遣に関する事業

国内におけるホッケー競技の競技力向上を図り、日本代表としてオリンピックやワールドカップを始めとする国際競技大会に参加する選手を選定し派遣する。また、ホッケー競技の競技力向上および普及の担い手となる指導者の育成も不可欠であり育成に努める。

(1)選手強化

1)競技者・スタッフ支援

オリンピック、ワールドカップ又はアジア競技大会等の国際競技大会での活躍を主眼とした強化策として、本協会が定める基準に達した競技者及び指導者をそれぞれ「代表候補選手」及び「強化スタッフ」として指定し、これらの競技者、コーチへ直接的あるいは間接的な支援を行う。

2)強化合宿、海外遠征

競技力向上事業の一環として、シニア日本代表候補選手の強化合宿、ジュニア(U21)、ユース(U18)及びジュニアユース(U15)の各世代の競技者を対象とした選考会および合宿を実施する。国内合宿は、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点や、都道府県協会との連携のもとで全国のホッケー競技場を利用して行う。また、海外チームの招聘にも積極的に取り組む。あわせて、国立スポーツ科学センターでの測定や、科学的データを用いた技術向上を目的とするものや、海外指導者の招聘、海外経験の蓄積や国際競技力向上を目的とした海外合宿を、目的に応じた多様な場所で実施する。U12カテゴリーについては、「U12ホッケードリームキャンプ」「U12オールスター戦」を通じたスキルアップやモチベーション向上を目指す。

(2)国際競技大会への代表参加者選定及び派遣

国際競技大会に対し、日本の代表選手を選考し派遣する。令和8年度の主要な国際競技大会としては、各種世界選手権大会(シニア、ジュニア、ユース)等の国際ホッケー連盟(FIH)、アジアホッケー連盟(AHF)が主催する競技大会がある。なお、各競技大会への代表派遣選手は本協会が定める「日本代表選手・スタッフの選考に関するガイドライン」則り選考する。

《派遣予定大会(男子日本代表チーム・サムライジャパン)》

- ・日中韓ホッケー国際強化マッチ (2026年4月 東京都品川区/岐阜県各務原市)
- ・FIH Nations Cup 2025-2026 (2026年6月 南アフリカ)
- ・FIH Hockey World Cup Belgium Netherlands 2026 (2026年8月 オランダ・ベルギー)
- ・愛知・名古屋アジア競技大会 (2026年9月 岐阜県各務原市)

・AHF Hero Asian Champions Trophy (時期・開催地未定)

《派遣予定大会(女子日本代表チーム・さくらジャパン)》

- ・日中韓ホッケー国際強化マッチ (2026年4月 東京都品川区/岐阜県各務原市)
- ・FIH Nations Cup 2025-2026 (2026年6月 ニュージーランド)
- ・FIH Hockey World Cup Belgium Netherlands 2026 (2026年8月 オランダ・ベルギー)
- ・愛知・名古屋アジア競技大会 (2026年9月 岐阜県各務原市)
- ・AHF Asian Champions Trophy (時期・開催地未定)

《派遣予定大会(U21男子日本代表チーム)》

- ・Men's Hockey Junior Asia Cup (時期・開催地未定)

《派遣予定大会(U21女子日本代表チーム)》

- ・Women's Hockey Junior Asia Cup (時期・開催地未定)

《派遣予定大会(U18男女日本代表チーム)》

- ・女子 海外遠征 (2026年8月 オランダ)
- ・日韓交流事業 (2026年10月 男子 日本/女子 韓国)
- ・男子 海外遠征 (2027年2月 スペイン)

《派遣予定大会(U15男女日本代表チーム)》

- ・海外遠征 (2026年8月 オランダ)

(3) 医科学サポートおよびドーピング防止活動

1) 医科学サポート

国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿において、競技者の体力や技術に関する測定、それらを収集したデータの解析、研究結果の指導現場へのフィードバック等を中心に、客観的データやバイオメカニクス研究を中心とする科学的サポートを実施する。対象は、主に男女日本代表ナショナルチーム(サムライジャパン・さくらジャパン)および U21 代表チームの強化合宿等において、ウェアラブルGPSトラッカーやコンディション管理アプリ、スポーツ映像分析ツールを導入し、科学的な面から競技者に対してサポートを実施する。

また、国際競技大会や国内主要競技大会、各種強化合宿において、ドクターやトレーナーを派遣し、選手のコンディションや疾患、障害の予防や治療、栄養サポート等を行う。

2) ドーピング防止活動

アンチドーピング・インテグリティ委員会が中心となり、ドーピング検査「治療目的使用に係る除外対象措

置(TUE)」申請のアンチドーピングの他、日本代表候補選手及び指導者に対する講習会の実施、情報提供のため(公財)日本アンチドーピング機構発行の教材を提供し啓発活動を行う。

(4)新たなアスリート育成パスウェイによるタレント発掘

学校部活動のホッケー部やホッケークラブに所属している者に限らず、ホッケーに適性を有する潜在能力(ポテンシャル)の高いタレントを見だし、優れたコーチングスタッフによる質の高い育成プログラムを提供する。具体的には U15 世代を対象としたエリートアカデミーを開校し、年に5回の合宿と居住地・オンライントレーニングを組み合わせ、専門指導者の下で競技力だけではなく日本代表選手としての心構えや知的能力人間力の向上も目指す。また、タレント発掘事業(J-STAR)では地域 TID との連携を一層進めると共に、出口戦略としてエリートアカデミーとの間に「NEXT-Star プログラム」を設置予定である。

(5)指導者育成

指導者の養成を目的とした下記の事業を実施する。

1)(公財)日本スポーツ協会(公認スポーツ指導者育成)指導者講習会

本事業は、(公財)日本スポーツ協会(JSPO)からの受託事業であり、有望な競技者の育成にあたる指導者を養成する目的で講習会を実施する。

-JSPO コーチ3 (前期講習会および後期講習会)

-JSPO コーチ4 (前期講習会および後期講習会)

2)指導教本作成

各年代の発育段階に応じた適切な指導方法を普及させるため、小学生～大学生、社会人チームの指導者に向けた教本を作成しており、販売を継続する。

3)ACD キャンプ

JSPO コーチ 3/4 の有資格者に向け、資格取得後も学習を続けることを目的とし、またコーチ同士のネットワーク作りの場として ACD キャンプ(オンラインカンファレンス)を全 6 回の予定で開催する。

4)海外優秀指導者招聘事業

国際舞台で顕著な実績を有する、海外のコーチを招聘し、国内指導者向けに講習会を実施。世界基準でのコーチングメソッドを体感し、コーチカアップに資する。

2. ホッケー競技の国際競技大会、国内競技大会の開催に関する事業

国内における国際競技大会や、日本選手権大会を始めとする国内競技大会を開催しているが、ホッケー競技は世界で統一されたルールのもとで実施されなければならない。このため、本協会は下記の条件を満たした競技大会を公認競技大会として開催する。

(1)ホッケー競技に関する国内競技大会の開催

《国内競技大会》

「第45回全日本大学ホッケー王座決定戦・東西交流戦」

開催日程:2026年6月25日～6月28日

開催場所:福井県立ホッケー場、越前町菅朝日総合運動場(福井県)

「男子第89回・女子第68回全国高等学校ホッケー選手権大会」

開催日程:2026年8月8日～8月12日

開催場所:OSPホッケースタジアム・米原市伊吹第1グラウンド、県民共済ドーム長浜(滋賀県)

「第3回 社会人女子プレミアムカップホッケー」

開催日程:未定

開催場所:未定

「第56回全日本中学生ホッケー選手権大会」

開催日程:2026年8月14日～8月17日

開催場所:瀬戸町江尻レストパーク(岡山県)

「第80回国民スポーツ大会ホッケー競技」

開催日程:2026年9月4日～9月8日

開催場所:六ヶ所村内子内農山村広場多目的広場、青森県立三沢高等学校グラウンド(青森県)

「第24回全日本マスターズホッケー大会」

開催日程:2026年9月11日～9月13日

開催場所:広島広域公園第二球技場(広島県)

「第49回全日本U-12ホッケー交流大会」

開催日程:2026年9月21日～9月23日

開催場所:大井ホッケー競技場(東京都)

「男子第68回・女子第48回全日本社会人ホッケー選手権大会」

開催日程:2026年10月10日～10月14日

開催場所:都農町藤見公園人工芝(宮崎県)

「第27回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会」

開催日程:2026年10月24日～10月25日

開催場所:福井県立ホッケー場／越前町宮朝日総合運動場(福井県)

「第75回男子・第48回女子全日本学生ホッケー選手権大会」

開催日程:2026年10月30日～11月3日

開催場所:大井ホッケー競技場(東京都)

「第3回全日本女子ホッケー選手権大会出場プレーオフ」

開催日程:未定

開催場所:未定

「第100回全日本男子ホッケー選手権大会」

開催日程:未定 (決勝戦はNHK Eテレによる生放送予定)

開催場所:未定

「第87回全日本女子ホッケー選手権大会」

開催日程:未定

開催場所:未定

「第7回マスターズホッケー JAPAN CUP」

開催日程:2026年11月28日～11月29日

開催場所:大井ホッケー競技場(東京都)

「第58回全国高等学校選抜ホッケー大会」

開催日程:2026年12月19日～12月23日

開催場所:川崎重工ホッケースタジアム／岐阜県立岐阜各務野高等学校ホッケー場 (岐阜県)

(2)登録

競技大会への出場、または公認競技役員資格の取得のための登録を実施する。登録の実質的な手続きや登録料の徴収は、登録システムを通じ、本協会は各都道府県協会所属のチーム・競技役員からの登録情報を集約してデータ化する。

(3)競技規則の制定及びホッケー競技規則(ルールブック)の発行

FIHが制定する競技規則をもとに、国内用の規則を制定する。これらの諸規則をまとめた「ホッケー競技規則(ルールブック)」を発行する。

(4)施設・用器具の検定及び公認

日本国内におけるホッケー競技発展の為、本協会の規程に定める要件を満たす人工芝競技施設の公認制度を推進、また競技者の安全と快適なプレイを守る為、用器具の検定を実施する。

(5) 審判員の資格付与

「公認競技役員規程」に則り、A級、B級、C級、D級審判員資格を付与する。また本協会はFIHやAHFの加盟団体として、適当なレベルに達した審判員を国際審判員に推薦する。

(6) 競技役員の資格付与

「公認競技役員規程」に則り、公式試合におけるテクニカルデリゲート、テクニカルオフィサー、ジャッジが可能なT4、T3、T2およびT1の資格を付与する。またFIHやAHFの加盟団体として、適当なレベルに達したオフィシャルを国際オフィシャルに推薦する。

3. ホッケー競技の普及に関する事業

多くの児童・生徒からシニア愛好者に至るまで、広くホッケー競技に触れる機会を提供し、ホッケー競技というスポーツを通じて運動能力、体力向上、生涯スポーツの受け皿づくりに貢献する事業を行う。

(1) U12(小学生年代)世代の競技普及、継続促進への取り組み

1) 全日本 U-12 ホッケー交流大会

全国の U-12 世代のチームが一同に会し、ホッケー競技の楽しさと喜びを体験させ、より優れた技能とスポーツマンシップを身につけるための研修の場とすると共に、団員相互の交流を深め、仲間意識と連携を高めることを目的としている。(時期、場所等は前述)

2) U12 ブロック選考会

全国8ブロック地区(北海道・東北、関東、東海、北信越、関西、中国・四国、九州)ごとに、単独チームでは難しい、地域内での選手交流や技能の共有、シニア選手によるホッケークリニックの実施と選考会を実施する。本選考会はコーチレベルの向上にも寄与しており、例年、全国で 350 名以上の選手が参加している。

「U12 ホッケードリームキャンプ 2025 ブロック選考会」

開催日程:2026年8月～9月

開催場所:全国7ブロック(北海道・東北、北信越、関東、東海、関西、中国・四国、九州)

3) U12 ホッケードリームキャンプ

U12 ブロック選考会で選出された、男女合わせて 120 名の選手が全国から一堂に会し、オリンピックや日本代表選手のコーチングのもと、更なるホッケースキルの向上や研修等を通じた、心身の育成を図る。

「U12 ホッケードリームキャンプ 2026」

開催日程:2026 年 11 月 28 日～11 月 29 日

開催場所:グリーンランドみずほホッケーグラウンド(京都府京丹波町)

4)U12 ホッケーオールスター戦

U12 ホッケードリームキャンプで選出された、男女各 30 名の選手が、東京 2020 オリンピックの会場である、大井ホッケー競技場でオリンピックや日本代表選手のコーチのもと、シニアと同じ 11 人制ホッケーのゲームを行う。保護者・コーチ向けのアンチ・ドーピング講習会や選手向けの栄養学の講習などを組み合わせることで、技能向上や選手間交流だけでなく、競技への取り組み姿勢の醸成を目的とする。

「U12 ホッケーオールスター戦」

開催日程:2027 年 2 月 27 日～2 月 28 日

開催場所:大井ホッケー競技場(東京都品川区・大田区)

(3)夢見るホッケー体験教室等の普及イベントの開催

ホッケー競技でオリンピックやワールドカップなどの出場経験のある選手、指導者を全国都道府県協会と連携して講師として派遣し、普段ホッケーと馴染みのない方々にもホッケーの魅力を直接肌で感じて頂く体験教室を開催する。選手と触れ合い、スポーツの魅力を伝えることを目的としている。また、本年度から、ホッケー未経験者の方も手軽に参加できるよう、競技場等に拘らず人の出入りが多い公共施設や商業施設等での普及活動も推進する。(「HOCKEY RISING PROJECT」)

「夢見るホッケー教室」(全 4 回前後)

開催日程:2026 年 9 月～2027 年 2 月

開催場所:調整中。今後決まり次第協会ホームページ・SNSに掲載予定

「HOCKEY RISING PROJECT」

開催日程:未定

開催場所:調整中。今後決まり次第協会ホームページ・SNSに掲載予定

(4)マスターズ世代(主に 50 代以上)の生涯スポーツとしての受け皿づくり

健康寿命の向上と豊かなセカンドライフの創出を主目的とした、マスターズ世代の受け皿づくりをおこなっており、最上位のカテゴリーとして 70 代の選手が現役としてホッケーに親しんでいる。人材交流による地域ホッケーの活性化やホッケーを通じた国際交流など、マスターズ世代ならではのホッケーのすそ野拡大に貢献している。

「第24回全日本マスターズホッケー大会」および「第7回マスターズホッケー JAPAN CUP」
(開催時期、場所等は前述)

(5)公式ホッケータウンの認定

当協会の創立100周年を機に、これまでホッケー競技を支えていただいた、そして今後も共にホッケーを普及振興していただける市区町村と連携し、ホッケーの普及とホッケーを通じた地域の活性化を共に行っていく相互のさらなる発展を目指す為に「公式ホッケータウン認定制度」を行っている。ホッケータウンが横断的に繋がり、ホッケーを軸とした情報共有、発信等を行っていく。

4. 広報活動

(1)広報誌の発行

年刊の機関誌であるホッケーマガジン「HOCKEY・YEAR BOOK」を発行し、登録会員や一般購読者に向けた情報提供、各種報告を提供する。

(2)ホームページおよび SNS による情報発信

JHA ホームページや SNS での情報発信のより一層のレベルアップを図る。アジアホッケー連盟や国際ホッケー連盟とも連携を図りながら施策を実施していく。また、地域活動の情報発信にも努める。

(3)試合動画配信

YouTubeを活用した試合動画については、今年度もJHA主催大会の決勝戦をメインに試合のLIVE配信を可能な限り実施する。

5. 国際活動に関わる取り組み

- ・日本のホッケー強化と国内における普及を目指し、国際ホッケー連盟(FIH)及びアジアホッケー連盟(AHF)と連携しながら国際活動を行う。両連盟の企画するイベントには出来る限り参加をし、協力する。
- ・FIH 及び AHF 並びに各国ホッケー協会と連携して情報交換し、大会参加を通じて海外と積極的に交流活動を行う。
- ・FIH 及び AHF への理事の派遣と共に、国際会議や国際競技大会等に参加し、最新の国際情報を取得する。また更なる連携強化のため、ロビー活動を積極的に行う。
- ・日本代表チーム等の国際競技大会、海外遠征の支援活動(連絡や交渉、情報収集)を行う。また、招聘情報を関連団体に提供する。海外代表チーム等の日本への招聘事業に関しては、強化育成本部との協力の下に行う。
- ・(公財)日本オリンピック委員会等が主催する国際関係会議に参加する。
- ・(公財)日本オリンピック委員会が主催する「国際人養成アカデミー」へ人材を派遣する。

6. マーケティング活動の継続

中長期的な観点での強化育成や普及事業、組織基盤の整備を十分に実施できる強固な財政基盤確立のための活動を実施する。

(1) パートナーシップ活動の実践

パートナーであるスポンサーやサプライヤーとの間で密な意思疎通に努め、協賛価値の共有、アクティベーションの継続的な実践と見直し、関係の長期に亘る安定的な維持ならびに拡大を目的とした関係構築に取り組む。また、既存協賛企業以外のスポンサー開拓に取り組むための人材を確保する。

(2) 社会共創活動への取り組み

ホッケーと社会双方が Win-Win になる持続可能な取組みの開発、SDGs軸でのホッケーの社会貢献を通じて、これらの取り組みに賛同してくれる有為な人財や地域、企業、団体との連携を図っていく。

(3) デジタルマーケティングの実践

デジタルマーケティングの外部専門家とも意見交換をしつつ、SNS コンテンツの作成・発信に努める。

7. コンプライアンスの推進

ホッケーに関わる人一人一人がより高い倫理観に従って行動し、コンプライアンス意識を高める。

- ① コンプライアンスの推進に関する基本方針を広め、確立する。
- ② 選手、役員等のコンプライアンス研修会を積極的に開催する。
- ③ 関係団体においても、コンプライアンスの重要性を伝えていく。
- ④ インテグリティ・アンチドーピング教育を充実させる。
- ⑤ 日本ユニセフ協会が提唱する「子どもの権利とスポーツの原則」の賛同式を行い、子どもの成長を応援する取組みを実践する。

8. 総務・財務に関する事業

(1) JHAの組織運営にガバナンスを行き届かせる。

- ① 事業運営や決定の透明性を図り、マネジメント機能の強化を図る。
- ② 諸規程に基づいた決裁権限を遵守することを徹底する。
- ③ 事業実施はすべて決裁を受けてから行うことを意識づけ、徹底する。

(2) 財務規律を確立し健全な協会運営を図る

- ① 予算制度に基づいた業務執行を浸透させ、徹底する
- ② 計画的な事業執行を行い、運転資金や余裕資金を確保する
- ③ 中長期財務計画を立て、財務状況の安定化を図る。

(3) スポーツ庁のスポーツ指針を尊重し、実行する

- ① 助成金・補助金を、効果的に活用する。
- ② JSPO・JOC の方針を確実に受け止めて実現させる

- ・ガバナンスコードに沿った組織のあり方の継続検討。
- ・環境保護への取り組みの周知と、FIH や AHF とも連携した社会貢献活動の実施
- ・アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりへの取り組み（賭博、薬物等への対策）。
- ・アスリートの意見が協会運営に反映される仕組み作り

組織図

